

有馬記念館年報 第3号

平成28(2016)年度

平成29年9月
公益財団法人有馬記念館保存会

ごあいさつ

有馬記念館は、昭和 34 年（1959）の久留米市制 70 周年を記念して、石橋正二郎氏（株式会社ブリヂストン社長・当時）より施設を寄贈され、昭和 35 年に開館し、久留米の郷土資料館として親しまれてきました。

平成 21 年度には、久留米市制 120 周年と石橋正二郎氏生誕 120 年を記念して、施設の改修工事を行い、平成 22 年 11 月 28 日にリニューアル・オープンしました。以来、特別展・企画展など、数々の展示会を開催し、大名有馬家や久留米藩ゆかりの歴史資料・美術工芸品を公開してまいりました。

平成 28 年度にはリニューアル・オープンから 7 年目を迎え、リニューアルオープン以降、28 年度末までに延べ 70,204 人にご来館いただきました。今後も、郷土資料の収集及び調査、公開を進め、久留米をテーマとした展示会を中心に開催してまいります。

事業の周知のため、平成 27 年度に年報を創刊し、このたび第 3 号を発行することとなりました。当館の活動を知っていただき、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 9 月 30 日

公益財団法人有馬記念館保存会
会長 榎原 利則

目次

I 有馬記念館の概要	1
1. 施設の設置	1
2. 施設の管理	1
3. 施設の概要	1
4. 運営	2
5. 予算	3
6. 開館時間	3
7. 入館料	3
II 平成 28 年度事業の概要	4
1. 展示	4
2. 広報	8
3. 教育普及	9
4. 資料の収集	9
5. 収蔵資料の活用状況	10
6. 入館者数	10

I. 有馬記念館の概要

1. 施設の設置

有馬記念館は、昭和 34 年(1959)の久留米市制 70 周年を記念して、昭和 35 年に郷土資料の調査・研究を目的に、当時の株式会社ブリヂストン社長・石橋正二郎氏より寄贈されたものである。市制 120 周年にあたる平成 21 年度に改修工事を行い、翌 22 年度にリニューアル・オープンした。

2. 施設の管理

公益財団法人有馬記念館保存会事務局（久留米市市民文化部文化財保護課内）

※当財団は公益財団法人の認定を福岡県知事より受け、平成 24 年 4 月 1 日より公益財団法人に移行。

3. 施設の概要

所在地 福岡県久留米市篠山町 444 番地

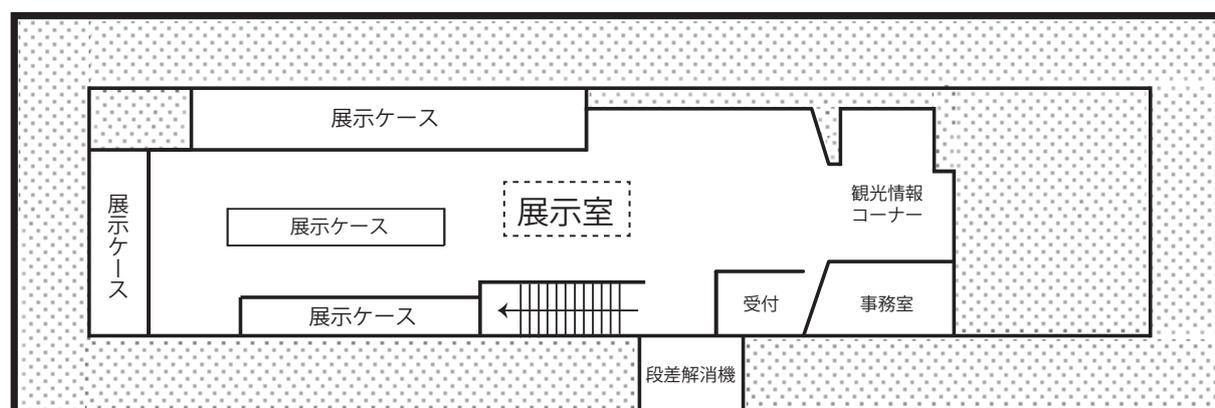
建築面積 492.9㎡

構造 鉄筋コンクリート造 2階建

竣工 昭和 35 年 3 月 28 日

（平成 22 年度有馬記念館内外改修・耐震改修工事実施）

有馬記念館展示室（2階）平面図



4. 運営

公益財団法人有馬記念館保存会

役員名	氏名	所属
会長	榑原 利則	久留米市長
副会長	本村 康人	久留米商工会議所会頭
常務理事	甲斐田 忠之	久留米市市民文化部文化芸術担当部長
理事	山田 茂人	篠山神社宮司
理事	永田 見生	久留米大学理事長
理事	富澤 章	株式会社ブリヂストン九州生産本部総務部長
監事	権藤 尚彦	株式会社福岡銀行執行役員県南地区本部長
監事	土屋 尚之	久留米市会計管理者

評議員	橋本 政孝	久留米市副市長
評議員	樋口 一成	久留米郷土研究会代表
評議員	河北 宣正	篠山神社総代
評議員	辻 文孝	公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会常務理事
評議員	森田 悠基	株式会社ブリヂストン九州生産本部総務部総務課長
評議員	竹村 政高	久留米市市民文化部次長

・事務局

事務局長（1）－ 事務局次長（1）－ 事務局員（6）

職名	氏名	所属
事務局長	馬場 博文	久留米市市民文化部文化財保護課 課長
事務局次長	白木 守	同 課長補佐
書記	小形 孝徳	同 事務主査
書記	小澤 太郎	同 主任主事
書記	穴井 綾香	同 主任主事
書記	佐藤 響子	同 主事
書記	津村 眞知	同 主事
書記	高取 莉沙	同 任期付非常勤職員

5. 予算

経常収益費計 19,887,138 円

経常費用計 24,304,900 円

6. 開館時間

開館時間 10:00 ～ 17:00（但し、入館は 16:30 まで）

休館日等 毎週火曜日（火曜日が祝祭日の場合はその翌日）

年末年始 展示替期間

7. 入館料

- ・高校生以上 200 円（150 円） 小中学生 100 円（50 円） ※（ ）内は 15 名以上の団体料金
- ・毎週土曜日は高校生以下無料
- ・身体障害者手帳・療育手帳の交付を受けている方及びその介護者は無料
- ・その他の減免制度あり

有馬記念館 外観



Ⅱ. 平成 28 年度事業の概要

1. 展示

(1) 特別展「京都相国寺・金閣寺の美 若冲と仁清」

会 期 平成 28 年 4 月 27 日 (水) ～平成 28 年 5 月 15 日 (日)

内 容 久留米シティプラザの開館を記念して、京都の相国寺、金閣寺（鹿苑寺）の寺宝を紹介する特別展を開催しました。近世京都の絵師伊藤若冲と、京焼の祖と言われる野々村仁清の作品を主に展示しました。特に、若冲の「群鶏蔬菜図押絵貼屏風」は、鶏の様々な姿が生き生きと描かれた水墨画で、鶏を得意とした若冲の本領が発揮されており、本展の目玉となりました。



さらに、久留米の茶陶「柳原焼」を紹介するコーナーでは、福岡県立美術館の所蔵する茶碗や水指などを展示し、総数 15 点を公開しました。 (佐藤)



展示風景

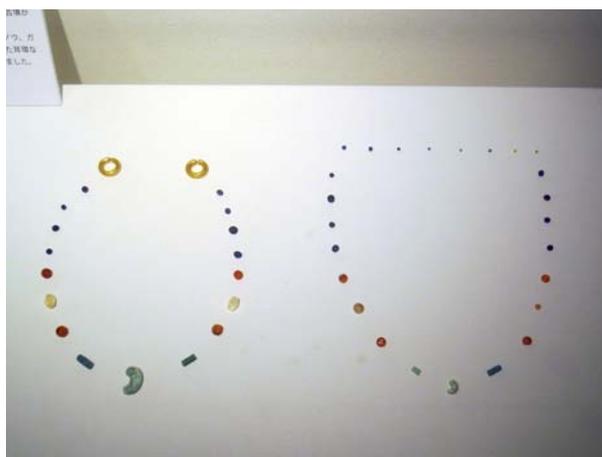
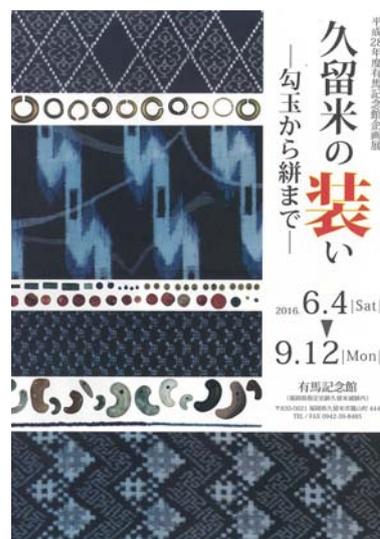
(2) 第1回企画展「久留米の装い—勾玉から拵まで—」

会 期 平成28年6月4日(土)～平成28年9月12日(月)

内 容 いにしえより、人々は立場や職業などに応じて、衣類や持ち物、髪型や飾りによって身を装い、暮らしてきました。特別な日には晴れの装い、日常の生活には普段の装いがあります。

本展は、「1. いにしへの装い」、「2. 描かれた装い」、「3. 装いの道具」、「4. 折り継がれる装い」の4章で構成し、弥生時代の勾玉から、現代に織り継がれる拵まで、久留米の長い歴史とともに生み出され、残されてきた「装い」にまつわる品々、計308点を公開しました。

(穴井)



展示風景

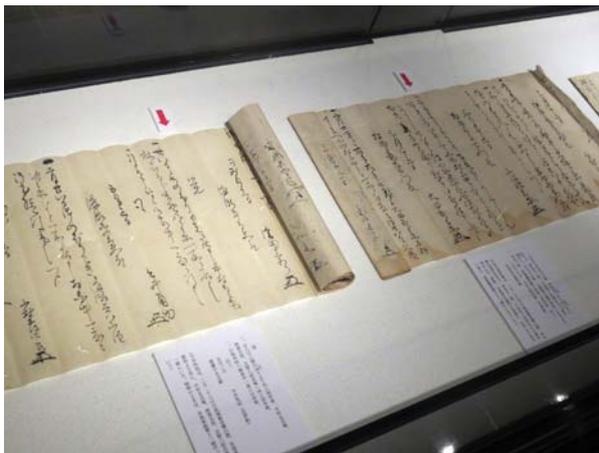
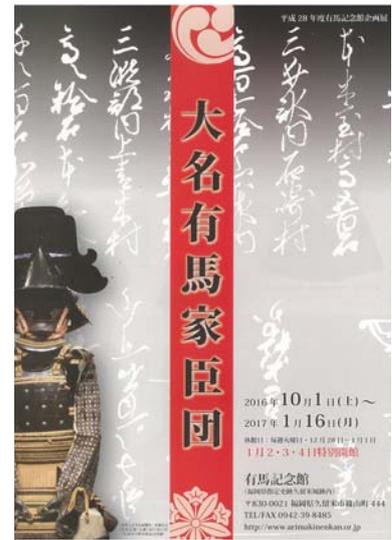
(3) 第2回企画展「大名有馬家臣団」

会 期 平成 28 年 10 月 1 日 (土) ~平成 29 年 1 月 16 日 (月)

内 容 2021 年の有馬家久留米入城 400 年に向けて、久留米藩政を担った家臣について継続的に紹介するシリーズ企画の第 1 弾。

16 世紀から 17 世紀にかけて、有馬家臣団は、織田から豊臣、そして徳川にいたる激動の時代をくぐりぬけ、久留米入城を果たし、天草・島原の乱に立ち向かいました。

近世前期に、大名有馬家を支え、久留米藩政を担った、家臣たちゆかりの武具や古文書など、30 点を公開し、有馬家臣団の歴史を紹介しました。(穴井)



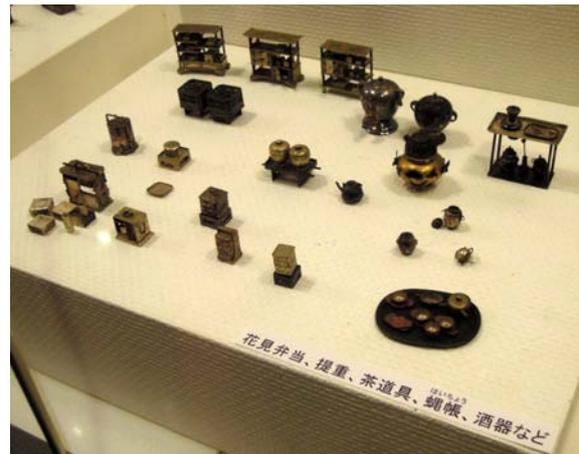
展示風景

(4) 第3回企画展「銀細工のミニチュアひな道具」

会 期 平成29年2月4日(土)～平成29年5月8日(月)

内 容 有馬家には、多数のひな道具が残されていますが、中でも銀細工のひな道具は200点余りが伝わります。姫様の嫁入り道具や調度類を、高さ1～5センチ程度のミニチュアにした精巧なものです。本展では、これらの銀細工を100点余り公開するほか、有馬家の姫様ゆかりの人形など281点を展示しました。

会期中、関連イベントとして、「銀粘土でシルバークセサリーを作ろう」(3月4日、参加者30名)を開催。焼くと純銀になる銀粘土を使ってペンダントトップやチャームを作りました。(佐藤)



展示風景



イベント風景

2. 広報

(1) 広報活動

◆印刷物

年間スケジュールリーフレット

各企画展のポスター・チラシの製作・配布（4回）

◆ホームページ

展示会・イベントの案内や、開館情報等を随時更新している。

(2) 報道記事

掲載月日	掲載紙等	内容
4月15日	広報くるめ	京都相国寺・金閣寺の美 若冲と仁清
5月8日	毎日新聞 朝刊	目を引く独特の技法 久留米・有馬記念館 15日まで「若冲と仁清」展
5月14日	朝日新聞 朝刊	有馬記念館で若冲作品展示 明日まで、久留米
6月1日	広報くるめ	久留米の装い—勾玉から拵まで—
9月24日	西日本新聞 朝刊	有馬家入城 400年控え市民の関心高めたい
2月6日	朝日新聞 朝刊	小さくても…細工華やかに ミニひな道具 久留米で展示
2月12日	毎日新聞 朝刊	小粒でかわいい〜ミニチュアひな道具展

(3) 展示・イベント情報掲載紙

◆新聞

朝日新聞 熊本日日新聞 西日本新聞 中国新聞

◆雑誌等

Agena Dogena 月刊ぷらざ TOBU SECOND ご当地新聞くるめすたいる 久留米広域圏イ
ベントカレンダー ふくおかよかここパスポートで巡ろう！ものづくり体験施設 九州王国
cocomi 歴史人 ほとめき

◆地方公共団体広報紙

広報くるめ 福岡県だより 会議所ニュース

3. 教育普及

◆学校見学受入れ

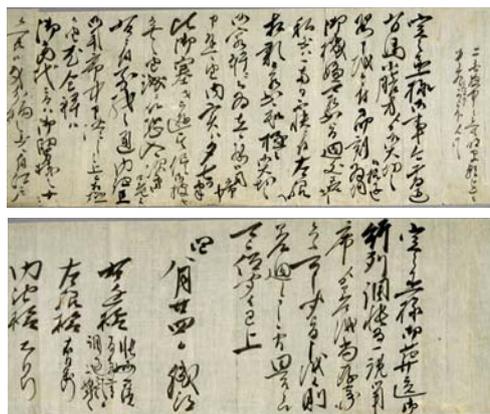
6月20日	久留米大学（122名）
10月13日	久留米市立城南中学校（4名）
11月16日	久留米市立小森野小学校（49名）
11月29日	久留米大学（21名）

4. 資料の収集

◆久留米藩家老有馬織部関係文書

当史料群は、平成28年10月、有馬頼底氏より当財団に寄贈された近世後期の古文書で、数量は全29通である。宛名を欠く2通を除き、久留米藩家老有馬織部から他の家老に宛てて発給されたもので、宛先各人が宛名それぞれの下などに回答を記入している。文書は、通常、受給者側に残されるものであるが、有馬織部文書の場合、宛所を異にしながら同一発給者の文書が一定のまとまりをもって伝来していることから、回覧された上で有馬織部の下に返却された「廻状」とみてよいだろう。久留米藩政中枢の実態、特に意思決定過程を解明するための糸口となる史料群である。

有馬織部(1781～1851)は、本姓は吉田氏、別名「照長」。代々「有馬」名字を許され、4000石の知行を与えられた家老の家に生まれた。幼名は乙九郎。寛政6年(1794)に家督相続、翌7年に元服して「織部」。同10年に家老職に就き、8代藩主頼貴から頼徳・頼永・頼咸の4代にわたって歴任した。和漢の学に通じ、また、茶道を良く嗜む。妻は頼貴の姫・御堅。



寄贈資料（一部）

5. 収蔵資料の活用状況

◆印刷物掲載

許可日	申請者	目的	内容
10月14日	株式会社天夢人	『週刊ビジュアル江戸三百藩』第59号（平成28年11月15日発行）掲載	有馬頼徳「墨竹図」
1月24日	株式会社かまくら春秋社	月刊『かまくら春秋』（平成29年2月1日発行）掲載	有馬頼義肖像写真

6. 入館者数

(1) 平成28年度 入館者数（展示会別）

展示会名	開館日数	入館者数（人）		
		有料	無料	合計
特別展「京都相国寺・金閣寺の美若沖と仁清」	19	3,544	349	3,893
第1回企画展「久留米の装いー勾玉から拵までー」	86	784	437	1,221
第2回企画展「大名有馬家臣団」	89	1,129	292	1,421
第3回企画展「銀細工のミニチュアひな道具」	82	1,293	823	2,116

(2) リニューアル・オープン～平成28年度 入館者数（年度別）

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
入館者数（人）	4,375	11,264	28,148	5,605	5,388	6,578
展示会数	企画展2	特別展1 企画展3 常設展3	特別展1 企画展1 常設展3	企画展2 常設展2	企画展3	企画展4

年度	H28
入館者数（人）	8,846
展示会数	特別展1 企画展3

※H22は、11月28日以降

有馬記念館年報 第3号

平成28(2016)年度

平成29年9月30日

発行 公益財団法人有馬記念館保存会
福岡県久留米市篠山町444

印刷 香和印刷株式会社
